

会 議 記 録

会議名称	令和 8 年度第 1 回 杉並区立図書館協議会
日 時	令和 8 年 6 月 13 日（土）午後 2 時 01 分～午後 3 時 41 分
場 所	中央図書館 地下 1 階 多目的ホール
出席者	委員 鈴木、石田、滝田、三浦、澤村、増田、日向、松林、児玉、内山、岡村、門間 区側 共創教育担当部長、中央図書館長、管理係長、企画運営係長、施設整備担当係長、資料相談係長、事業係長、管理係主査、企画運営係主査、企画運営係主査、資料相談係主査、柿木図書館長、西荻図書館長、永福図書館長、高円寺図書館長、宮前図書館長（代理）、成田図書館長、阿佐谷図書館長、南荻窪図書館長、高井戸図書館長、方南図書館長、今川図書館長、中央図書館業務委託責任者
配付資料	・次第 資料 1 第 22 期杉並区立図書館協議会委員名簿 資料 2-1 令和 8 年度杉並区立図書館職員体制 資料 2-2 杉並区立中央図書館組織図 資料 3 令和 8 年度中央図書館予算概要 資料 4 令和 8 年度の主要課題（中央図書館） 資料 5-1 令和 8 年度図書館サービス評価の実施について 資料 5-2 図書館評価 自己評価の見直しについて 資料 5-3 令和 8 年度 図書館自己評価表 ・別紙 令和 8 年度杉並区立図書館協議会 年間スケジュール
会議次第	1 開会 2 共創教育担当部長あいさつ 3 議題 (1)令和 8 年度杉並区立図書館の体制について (2)令和 8 年度図書館予算の概要について (3)令和 8 年度の図書館の主要課題について (4)令和 8 年度図書館サービス評価の実施について (5)その他 ・次回日程 4 閉会

○中央図書館長 それでは、定刻となりましたので、令和8年度第1回杉並区立図書館協議会を開催いたします。

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私は、4月1日付で杉並区立中央図書館長に着任いたしました●●と申します。議題までの進行を務めさせていただきますので、よろしくどうぞお願いいたします。一旦着座させていただきます。

昨年度までこの図書館協議会の学校関係者として、済美教育センターから●●委員をお願いしておりましたが、降任の申し出がございまして、今年度からは済美教育センターの●●委員をお願いすることとなりました。委嘱状につきましては、席上配付させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員 よろしくお祈いします。

○会長 よろしくお祈いします。

○中央図書館長 ありがとうございます。

続きまして、このたび、教育委員会におきまして組織改正がございましたので、ご報告させていただきます。これまでの生涯学習担当部長の職が名称変更いたしまして、共創教育担当部長となりました。令和8年度の共創教育担当部長につきましては、教育委員会事務局次長が部長を兼務することとなっております。

それでは、共創教育担当部長より、一言ご挨拶させていただきます。よろしくお願いいたします。

○共創教育担当部長 皆様こんにちは。この4月から共創教育担当部長も兼務することになりました教育委員会事務局次長の●●と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

組織改正につきましては、これまでの個人の力の力量形成を図る生涯学習といった観点からそれぞれの力を結集して、杉並区の皆さんと共に杉並区の教育をつくっていかうと、そういった趣旨で衣替えといえますか、組織改正の名称を変更したところでございます。特に図書館は体制は変わっていないのですけれども、今般、学校支援課というところが今度こちらの共創教育の担当のほうに來まして生涯学習推進課と一体となり、地域の学び推進課となり、これまでの生涯学習に加え、地域と共に学校を支えていく取組をさらに進めていかうというところで、組織改正をしたところでございます。

あと、今年につきましては、まず、杉並区の羅針盤ともなります総合計画、実行計画の改定といった年となっております。その計画を踏まえまして、今度は杉並区のエ育行政の

柱となる杉並区教育ビジョン2022推進計画、こちらの改定も予定しているところでございます。また、これらの改定と併せまして、杉並区の子ども読書活動推進計画の改定も予定しているところでございます。今般、図書館サービスのさらなる向上に向けて、子ども読書活動推進計画も改定してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、図書館サービス評価の実施について議題としていただいておりますので、皆様方の忌憚のないご意見を頂ければと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○中央図書館長 部長、ありがとうございました。

本日の資料につきましては、お手元に配付をさせていただいております。時間の関係上、資料の確認は省略させていただきますけれども、それぞれの議題の際に資料番号を申し上げますので、お手元に資料がない場合は、お声がけいただければと存じます。

では、次に、委員の皆様のご紹介に移らせていただければと思います。お手元の資料1をご覧くださいければと思います。

この後の議題の中で意見交換の時間もございまして、ここでは、名簿の順にお名前だけの自己紹介をお願いできればと思っておりますので、資料1の順番でよろしくお願いいたします。

【自己紹介省略】

○中央図書館長 委員の皆様、ありがとうございます。

それでは、続きまして、図書館の職員につきましても、自己紹介させていただきたいと存じます。資料2-1、杉並区立図書館職員体制をご覧ください。共創教育担当部長、中央図書館長以外の各図書館長及び各係長、主査から、資料の記載順についてご挨拶させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【自己紹介省略】

○中央図書館長 では、以上の体制で、今年度、私ども業務に当たらせていただきたいと思います。思っております。

それでは、ここからの議事進行は会長をお願い申し上げたいと思っておりますので、会長、お願いいたします。

○会長 それでは、改めまして、今年度、また令和8年度、1年間、皆様と杉並区の図書館

の協議会を始めていきたいと思っています。

本日は、●●委員からご欠席の連絡を頂いております。そのため、出席者数は12名となります。規則上、委員の半数以上の定足数は満たしておりますので、会議としては成立しておりますので、このまま進めていきたいと存じます。

議事進行に当たり、円滑に進行できるよう、毎回をお願いになりますが、各委員のご協力をお願いいたします。できるだけ多くの委員が発言できるよう、ご配慮いただきたいと思います。

本日の資料をお手元に配付しております。時間の関係上、資料の確認は省略させていただきます。先ほど館長のほうからもありました。それぞれの議題の際に、資料の右上に資料番号を示してありますので、こちらを見ながら、議事を進めていきたいと思っています。

それでは、最初に、議題の(1)令和8年度杉並区立図書館の体制について、事務局から説明をお願いいたします。

○管理係長 よろしく申し上げます。管理係長です。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。恐縮ですが、着座のままで説明をさせていただきます。

それでは、まず初めに、令和8年度の杉並区立図書館の体制について、ご説明をさせていただきます。

杉並区立の図書館は、中央図書館を含めまして、13館ございます。そのほかに、図書の取次ぎを行います図書サービスコーナーが3か所ございます。

令和8年度の組織体制ですが、館長以下、資料で言いますと、資料2-1、先ほど見ていただいた資料2-1と、及び、資料2-2のと通りの体制、組織で取り組んでまいります。

中央図書館では、係が幾つかございますけれども、上から行って、管理係は庶務事務を、企画運営係は、図書サービスの企画や調整、地域館の統括及び情報化サービスについて、施設整備担当は図書館の改築等について、また、資料相談係は、図書の選定や収集、保存、図書館の利用相談、レファレンスサービスを行っております。事業係は、図書館での様々な事業のほか、学校図書館との連携などを行っております。各地域館では、図書館としての貸出し、返却などのサービスを行っております。

次に、各館の運営体制についてですが、中央図書館の運営につきましては、カウンター業務を民間に業務委託しております。次に、地域館においては、柿木、西荻、この2館については区が直接運営をしております。それ以外の永福、高円寺、宮前、成田、それから、阿佐谷、南荻窪、下井草、そして、高井戸、方南、今川、この10館につきましては指定管

理者が運営しておりまして、館長を含む全員が民間事業者の職員の方となっております。

指定管理者と業務委託との違いでございますが、指定管理ではその館の運営全般について包括的に事業者が運営を行っていますが、業務委託では、中央図書館の場合ですと、窓口業務ですとか図書館業務の一部につきまして、事業者に委託して行っております。

以上が職員体制及び組織についての説明です。

以上です。

○会長 では、引き続いて、議題(2)令和8年度図書館予算の概要についてと議題(3)令和8年度の図書館の主要課題について、この二つについて、関連がございますので、両方の説明を引き続いてお願いします。

なお、質疑につきましては、この三つの議題の説明の後にまとめて時間を取りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、説明のほうをよろしくお願いいたします。

○管理係長 それでは、今年度の図書館予算の概要について、説明をさせていただきます。

今度は、資料3をご覧くださいませでしょうか。図書館の予算ですけれども、大きく分けまして、この資料にあるとおり、運営管理費と維持管理費、大きく二つの枠組みから成り立っております。

まず一番最初の運営管理費ですけれども、これは図書館サービスの本体に係る経費ということになります。主な大きな経費としましては、図書館業務に係る委託経費、そして図書資料の購入経費です。今年度につきましては、こちらのうち、情報環境の提供というところで対前年度比で減額しておりますが、こちらについては、デジタルアーカイブ化の作業費が増であるとかデジタルアーカイブの保守委託費の増など、ランニングコストの増加は今年度ありますけれども、当初の導入に係る昨年度の構築委託費が大幅に減となっている関係で、合計としては減額となっております。また、図書サービス運営と子ども読書活動推進につきまして、対前年度比でこれも減額となっておりますが、これは、事業において優先的に取り組む事案につきまして、昨年度、7年度の予算の執行残によって、前倒しして年度内対応をしました。その結果、8年度予算につきましては、その分の経費を精査して予算額を減じたものとなっております。それから、業務端末等のシステムを動かすための経費として、図書館システム管理というところがありますけれども、こちらはICタグシステム機器の賃借料の増や図書館システムの機器更新作業費増などがありますけれども、これも昨年度の当初の導入業務委託費の減ですとか、昨年度行った高円寺駅前図書サービ

スコーナーの移転に伴うシステム機器の移設委託経費、これが大幅に減となっている関係で、合計としては減額となっております。中央図書館で計上する予算では、そのほか、講演会や講座等の事業を行う経費となっております。それ以外の細かいところでは、イベント等のポスター、チラシなど、印刷物の作成ですとか文房具の購入などの、そういった事務的な経費が含まれております。また、指定管理等の運営委託経費は地域館のところに含まれておりますが、こちらについては主に人件費の増加に伴う経費が大幅に増額となっております。

次に、2番目の維持管理費についてですけれども、こちらは区の直営部分に係る経費となりますが、清掃等の建物管理に係るものや、エレベーターですとか自動ドア等の保守や維持管理、それから光熱水費の支払いなど、施設自体の維持管理に充てる経費となっております。こちらは対前年度比で大幅に増額となっておりますが、これは維持管理に係る各種委託業務や修繕業務における資材費ですとか人件費などの増加を反映した経費の増が多くあることと、老朽化した施設の空調設備更新に係る経費の増などが主な増額の要因です。

以上が本年度予算の概要でございます。

では、引き続いて次の議題の説明をさせていただきますが、一旦、説明員を替わらせていただきます。

○中央図書館長 それでは、議題(3)令和8年度の図書館の主要課題についてご説明させていただきます。恐縮でございますが、私も着座にてご説明させていただきます。資料4をご覧くださいと思います。

杉並区では、中央図書館という組織が課の単位になっておりますが、課単位で年度ごとに取り組むべき課題を選定いたしまして、教育委員会全体でその実施状況の進行管理を行っております。特に重要なものを主要な課題、それに準ずるものをその他の課題としておりまして、中央図書館では主要課題5件、その他の課題5件と、今年度はいたしております。それが資料4として記載されております。

まず、主要課題の1件目でございます。「図書館の今後のあり方の検討に向けた準備と組織体制の見直しについて」と、抽象的なタイトルですけれども、内容を説明いたします。現在の図書館サービス基本方針ですが、令和5年3月に策定されております。杉並区立図書館の業務全般につきまして、10年間の期間にわたって方向性を示しているものでございます。この10年間の期間では図書館を取り巻く環境も変化いたしますので、10年間の折り返し地点となる令和9年度に、基本方針が掲げます将来の図書館像を踏まえまして、図書館

の今後のあり方を検討することとなっております。その際に、図書館が提供するサービスを見直すこととしております。この際の検討結果につきましては、報告書等で作成をいたしまして、協議会等で報告させていただく予定でございます。9年度の見直しに先立つ準備期間としての8年度として、今年度につきましては、中央図書館として、職員によります現状の分析であるとか課題の抽出などを行う予定でございます。先ほども申しましたが、9年度に具体的な検討を行いまして、あり方検討報告という形で作成をいたしまして、図書館協議会の委員の皆様にもお示しをいたしまして、そのタイミングでご意見などを伺うことを予定しております。

また、今後の図書館のあり方を実現するに当たりまして、柔軟かつ安定して効果的で効率的な組織運用を図れますように、組織体制も見直しをしたい、議論をしていきたいというふうに考えております。

次に、主要課題の2件目でございます。電子書籍の導入に向けた検討です。

この電子書籍につきましては、例示ですけれども、有料で提供されておりますKindleであるとか、無料で提供されております青空文庫といったようなものをイメージしていただければと思います。著作権処理がなされました、こういった様々な書籍のコンテンツ、これを図書館が提供主体といたしまして、利用者向けに無料で実施をするというサービスでございます。これを、電子書籍を読むための機器は、個々の利用者の方のスマホであるとかPCといった環境になっております。

これの導入の背景でございますけれども、障害等の理由で来館が困難な方であるとか、お仕事でお忙しい方などにつきまして、図書館サービスの一環として9年度のサービス開始を目指したいというふうに考えておりますので、今年度8年度につきましては導入についての検討を行いたいというふうに思っております。その準備ということで、今年度取り組ませていただきます。

次に、主要課題の3件目でございます。子ども読書活動推進計画の改定です。

子ども読書活動の推進に関する法律第9条の規定に基づきまして自治体ごとに策定するこちらの計画ですけれども、杉並区全体の実行計画であるとか杉並区のエデュケーションの推進計画、こういったものの改定に合わせまして、9年度から4年間の計画として今年度策定をする予定でございます。策定に当たって、その過程では、子どもの意見を聴取し、参考とさせていただくということを想定しております。

次に、主要課題の4件目でございます。宮前図書館及び柿木図書館の改築です。

令和12年度から改修工事の着手予定の宮前図書館につきましては、今後ですけれども、改築の基本方針を策定いたしまして、設計の事業者の選定に向けた準備などを進める必要がございます。併せまして、改築に伴う休館中の臨時窓口の設置であるとか図書の保存場所、そういったことの課題の整理を進めてまいります。

同様に、柿木図書館でございますけれども、現在、施設マネジメント計画、区の計画に基づきまして、周辺の施設、ゆうゆう館であるとか児童館、保育園であるとか、そういった施設とともに更新をどう進めていくのかということの、今、検討をしているところでございます。今年度中に改修の方向性が出る予定でございますので、詳細が決まりましたら、またご報告をさせていただきます。

次に、主要課題の5件目でございます。ICタグシステムを利用した図書館サービスの充実です。

ICタグシステムの導入全般につきまして検証いたしまして、課題等を抽出した上で、サービスの充実に向けた必要な対応を図ってまいりたいというふうに考えております。特に令和7年度に全館に設置が完了しました自動貸出機の利用状況を踏まえまして、実施効果について検証したいと考えております。また、6年度に中央図書館と高円寺図書館に設置をいたしました予約資料の受取棚、こちらの利用状況も確認しまして、他の地域館への横展開、それをどう考えるかということも検討していきたいというふうに考えております。

では、次に、その他の課題に移りたいと思います。

その他の課題の1点目、高円寺図書館等複合施設、「ふらっとすぎはち」と申しますが、こちらの指定管理者の選定の準備でございます。

高円寺図書館を含むこの施設でございますけれども、令和7年度4月に開設しております。複合施設として指定管理の期間が3か年ということで、7、8、9ということで、9年度末で指定管理が満了する予定となっております。それ以降の指定管理をどうしていくかというところにつきまして、9年度前半に事業者の公募・選定を行いますので、そういった公募要項の案であるとか、具体的にどういった形で選定を進めるかということの準備を、前段階として8年度に内部で検討を進めたいと思っております。

次に、その他の課題の2件目でございます。子ども読書活動推進懇談会の進め方等の見直しというところでございます。

今年度から新たな委員構成によりまして開催をいたします本懇談会につきましては、開催頻度であるとか会議の進め方、こういったものを見直しいたしまして、子ども読書活動

の推進に一層寄与する会議体として整えてまいりたいというふうに考えております。今年度は子ども読書活動推進計画の改定に当たっておりますので、こちらの懇談会でご議論いただいて、ご意見いただく予定でございます。

次に、主要課題3件目でございます。読書バリアフリーの充実です。

これまでも図書館全体で取り組んでまいりましたが、対面朗読であるとか音声デジターの作成、りんごの棚の充実、そういったものを、障害者の当事者の方のご意見を聴取いたしまして、読書バリアフリーのさらなる推進を図ってまいりたいというふうに考えております。

次に、その他の課題の4件目、デジタルアーカイブの充実でございます。

令和8年2月から運用開始いたしました杉並区のデジタルアーカイブでございますけれども、引き続きコンテンツの充実を図ってまいりたいというふうに思っております。特に、未実施となってしまう「杉並を学ぶ」というコンテンツですが、これは児童の利用なども少し視野に含めておりますので、学校関係者などとの連携を図りながら、早期に実施したいというふうに準備を進めたいと思っております。

最後のその他の課題になりますけれども、図書館ボランティアの育成でございます。

すぎなみ地域大学の活用によりまして育成させていただきました図書館ボランティアの方々ですが、活動場所や活動方法、こういったものの全体を少し検証いたしまして、より充実した活動ができるように人材のスキルアップを図ってまいりたいというふうに考えております。

以上10件が今年度の杉並区立図書館の主要課題となっております。私からの説明は以上でございます。

○会長 説明をありがとうございました。

それでは、議題(1)から(3)までの議題に関しまして、委員の皆様から何かご質問等ございますでしょうか。

それでは、委員、お願いいたします。

○委員 資料4の4番、宮前図書館、柿木図書館の改築で、令和12年度からということなんですけれども、最近、建築資材の高騰であるとか資材が調達できないとか、いろいろと問題が起こっているところでして、中野でも大きな建物をちょっとどうしようみたいな話はあるんですけれども、こちらのほうではそういった事情が起こりそうな何か可能性があるのかとか、そういうことが起こってもきちんと対応できるような、何というんでしょうね、

バッファーをちゃんと考えているのかとか、その辺について教えてください。

○中央図書館長 中央図書館長でございます。

委員おっしゃるように、建設に係るコスト、これの増加というのは、大きな行政の課題になっております。建設がさらに先を予定されているという状況ですと、さらに高騰していくという状況が見てとれますが、そういった上昇傾向も踏まえまして、施設の建設に遅延等が生じないようにということで、我々としては、施設の建設の進行管理をしている部門と連携いたしまして、そういったところも注視していきたいというふうに考えております。

○委員 まあ、頑張っていきますというお返事なんですけれども、例えば、これって、入札をするわけですね。これからなんですね。そのときに、こちらが想定している金額では誰も応札してくれないとか、そういうこともあると思うんですけれども、そうすると、その工事がどんどん先延ばしになっていくよと、そういうことなんですね。それは、どのくらい先延ばししちゃっても大丈夫なのかとか、その辺もちゃんと見て、例えば、これがずっと応札してくれなくて、10年くらい先になっちゃうとか、そういうことがあっても大丈夫なんですか。

○中央図書館長 様々な公共施設の、学校なども含めまして、建設は年度ごとに都度都度進んでおりますので、そういった動向等を踏まえまして、建屋全体の建物のボリュームなどでどれぐらいの試算になるかと。それが建設の期間中、当然、応札していただかないと、施設建設がおぼつかなくなりサービスの提供が遅れますので、そういったところもこちらのほうで当然留意いたしまして、準備を進めたいというふうに考えております。

○会長 よろしいでしょうか。

ほかにございますでしょうか。大丈夫ですか。

委員、どうぞ。

○委員 今、図書館というのはデジタル化が随分進んでいると思うんですけれども、そのデジタル化によって人間の作業が楽になったりとかというようなことも含まれているんですね。

○中央図書館長 中央図書館長でございます。

AIの活用というところは、区民の方もそうですし、我々、区の職員も着目しているところなんです、区の内部事務で申し上げますと、AIの活用などというのは、導入が始まり出しておりまして、使い方には大変留意をしなければならないところであると思うので

すけれども、効率に資するところというのはかなりあると思っておりますので、内部の活用というところもございます。また、図書館の利用者、区民の方が読書を通じて知識を得られるというところもありますけれども、AIによって得られる情報と読書によって得られる情報、それぞれメリット等もあると思いますし、違いもありますので、そういったところ、リテラシー的なところというのは、子どもにつきましては子ども読書活動推進計画の中でリテラシー的なところも含めて議論すべきではないかという内部の意見もあり、考えております。一方で、成人の方、そういった方も読書とAIの利用というところをどう考えていくのかというのは、社会全体の課題であるかなと認識しております。

○委員 ありがとうございます。

効率化のことなんですけれども、例えば、窓口業務がとても簡略化されたりとか、ICタグの利用と、あと予約システムの改良によって窓口業務が効率化されたとしたら、もしかして中央図書館の業務委託というのは多分人件費かなとかと思うんですけれども、それに関して、増えているのは分かるんです。人に対して、今、物価も上がっているんで、増えているのは分かるんですけれども、効率化できるとは考えていらっしゃるんですか。

○中央図書館長 ICタグの利用でご自分で貸出機を使われる方は、やはり増えているという傾向だと承知しております。いいところと考えなければいけない点とあると思っております。いいところは、業務的には窓口業務が緩和されるというのがあるのかもしれませんが。ただ、窓口業務も純粹に貸出しの処理をしているだけということではなくて、貸出しの受付をするときに、読みたい本のご相談を受けたりとか、レファレンスにつながるようなご案内もあるかと思います。全て皆さんがICタグを使っての自動貸出機に行かれるということではないところもあって、大事にしなければいけない対人的なサービスといえますか、広がりというところもあるかと意識をしております。

窓口の作業が若干緩和されるのではないかなというようなご意見もありますが、指定管理の指定管理料の中で人件費に相当する部分というのもございまして、安定的な窓口サービスを提供するということで、当然、配置しておく人員というところもございまして、そことの兼ね合いで少し趨勢を見てというふうに考えております。

○委員 ありがとうございます。

中央館の業務委託の金額と、あと、指定管理のほうの地域館との金額が、中央館はとても大きいところなんですけれども、これだけで考えると、ちょっとバランスが各館——地域館で指定管理は12館ありますよね。12館とのバランスがどうなのかなという感じもしました。

○中央図書館長 指定管理も、館の規模によって人員が違っているところも出てくるかなとも思っております。ただ、当然、私どもも、最小の経費で最大のパフォーマンスをというところを承知しておりますので、そういったことを少し留意はしたいと思っておりますが、図書館としてのサービスの確保というところも意識したいというふうに思っております。

○委員 分かりました。

あと、すみません、もう一つ。子ども読書活動、令和8年度その他の課題等で、子ども読書活動推進懇談会の進め方等の見直しというところがありますけれども、昨年度は一度も開かれず、今年見直しということで、「令和8年度から新たな委員構成で開催を予定する」。今年開くということですね。

○中央図書館長 はい。

○委員 読み方によっては、「予定する本懇談会について」、「進め方等を見直し」というところが、令和8年度に見直しをしていくのかとかというような感じにも若干取れるようなこともありますので、確実に今年開催されるのですか。

○中央図書館長 はい。去年は大変ご心配をおかけしてしまったというところは私も承知をしております。そういったことがないようにというところも当然肝に銘じております。あとは、活動推進計画の今年は改定の年でございますので、そこでご意見いただくというところがマストな状況になっております。去年の反省を踏まえまして、今年のご意見いただくという大きなテーマもございますので開催させていただきたいと思います。改定が済んだ9年度、10年度以降も、子ども、YAも含めまして、読書活動にどうご意見いただくというところは重要性を認識しておりますので、これまで懇談会で皆さんにご意見いただいたところも踏まえまして、引き続き開催していきたいと考えております。

○委員 すみません。いいですか。

「新たな委員構成により」というふうになっております。そこで、以前は懇談会に小中学校の校長会のほうから校長先生が出席されていたと思うんですけども、何やら働き方改革とかで、こちらの方たちが出席されておりましたよね。やはり、私が懇談会にいた頃は、校長先生の小学校での子どもの様子、子どもの読書の話とか、やはり生でその学校で何をやっているかというようなことをお聞きしたほうがとても子どもに寄り添った情報になると思いますので、難しいかもしれないんですけども、できれば、今度改定になるということですので、直接、子どもの様子が分かるような話が聞けたらなと思います。

○中央図書館長 ありがとうございます。学校関係者の方のご意見、これはやはり必要だというふうに思っておりますので、校長先生が全般的なところを見ていただいているというのはあるかもしれませんし、学校司書の方も、現場のご意見というのもあろうかと思っておりますので、そういったところを踏まえまして、人選等も含めて考えてまいりたいというふうに考えております。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ほかにございますでしょうか。

どうぞ。

○委員 先ほど館長のほうから主要課題の説明がありまして、特に、1番については、館長ご自身もおっしゃっていたように、かなり抽象的であるというふうに、これ、読んでも、確かに何が課題かよく分かりませんが、いずれにしろ、今年度は職員による現状分析と課題の抽出をしますよという行動計画のような感じもするんですけど、二つ目の丸のところ、先ほど現在の組織体制につきましては管理係長のほうからご説明ありましたが、特に何か組織体制を見直すというふうにまで書かれておりますので、具体的なところはまだ決まっていないんでしょうけども、何か、組織ということは、今回ここにご出席いただいている中央館長の皆様方とか各館の館長さん方、いわゆるここにいる方々が関係者だと思いますけど、特に何か組織を見直すことについてのイメージというのはあるでしょうか。もし何かお考えになっていれば、ちょっとお聞かせ願いたいと思いますけど。

○中央図書館長 ご意見ありがとうございます。

組織につきましては、ドラスティックに変更ということよりも、係の所掌のボリューム感などについて、私も着任した早々の状況ですので、それぞれの係長、主査から状況を伺って、少しバランスを整えてみたいとは思っているところもございます。ただ、具体的に何をどう——組織をガラガラポンするということは考えてはいないんですけども。あとは、直営と指定管理と委託館と混在しておりますので、そういった全体的な、杉並区全体の中のバランスと申しますか、ありようみたいなところも少し考えを、議論も含めて進めたいというふうに考えております。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ほかにございますでしょうか。

それでは、委員。

○委員 私は質問じゃなくてコメントになるんですけども、主要課題の1番目で今も触れ

られたと思うんですけども、「効果的・効率的な運営を図る」というところで、特に、私は、効率的という言葉が、今、非常に独り歩きされてしまって、効率化という書き方をすると、多くの人がITだ、AIだということで、機械化だ、システム化だというふうになってしまう。そういう受け取りをされることが多いと思うんですね。

それで、もちろん公共サービスの場でも無駄は要らないと思いますけども、やはり誰かを排除してしまうとかということにつながるような効率というのはよくないと思います。カウンターが、自動貸出機のほうが増えているというふうにおっしゃるかもしれないんですけども、例えば、私は大学で学生が司書課程の授業を受けるというときに課題を書かすんですけども、その課題を見ると、かなり多くの学生がやはり子どもの頃に公共図書館の人に、司書にすごく親切にしてもらったとか、学校図書館の司書教諭の先生がすごく優しく接してくれて自分は立ち直ることができたとか、そういう経験というのがすごく多く聞かれるんですね。人が接しない図書館というのは、ちょっとやっぱり違和感を覚えますので、むしろそういったところを杉並区は大切にしているんだということをアピールしていただきたいと思いますし、こういった計画にもそういったところを反映、読み取れるような形で書いていただけるとうれしかなというふうに思いました。よろしくお願いします。

○中央図書館長 ご意見ありがとうございます。司書の対人サービス、これはとても大切なことだと思っております。効果的・効率的というところは図書館としてのあるべきところの業務は当然押さえた上でのお話で、内部的な事務処理とか、そういったところを少し視野にとっております。ですので、図書館が本来行うべき、人の育てというところも含めまして、そこは大事にしていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○会長 ほかにございますでしょうか。

(なし)

○会長 はい。それでは、今年度、杉並区でこういうことを今のところ課題として認識して検討していくということですので、また後ほどの懇談の時間などでお話を、もし追加のお話がある場合には頂ければと思います。

次に、議題(4)令和8年度図書館サービス評価の実施について、こちらの説明をよろしくお願いいたします。

○企画運営係主査 はい。中央図書館企画運営係主査です。私から、図書館サービス評価についてご説明します。資料は、資料5-1です。こちらが今年度の図書館サービス評価の

実施についての説明資料になります。対象は、杉並区立図書館全館の令和7年度の事業になります。概要、基本的な考え方、実施方法も変更はございません。各館が行う自己評価と利用者満足度調査と協議会の皆様によるご意見を頂くという流れで実施します。

次に、資料5-2、こちらが「図書館評価 自己評価の見直しについて」という資料になっております。

まず、1、評価項目、評価表の改定というところに説明が載っているんですけども、図書館の自己評価表については、以前より、項目が多過ぎて分かりにくいであるとか、成果が出ているものともう既に成果が出切ってしまっていて、これ以上手をつけることが難しいようなもの、あとは、取組が難しく、なかなか手がつけられないもの、これらが区別なく一緒に記載されているということで、めり張りがなく読みにくいというご意見を頂いていました。作成する側の図書館としても、記載が細かく、どの事業がどこに入るのか、どの取組をどこに入れるのかというところがなかなか難しいという課題がありました。そのため、今年度は、評価表を見直しいたしました。

評価表を見直すに当たりまして、資料5-2の中ほどにあります集約の考え方というところをご覧いただきたいんですけども、今まであった11の項目を三つの分野にまとめました。その分野が、一つは資料収集と提供、もう一つが行事と連携事業、そして、その他という、この3種類の分野にまとめました。このまとめ方なんですけれども、資料の収集と提供というところは一くくりに読めると思うんですが、二つ目の行事と連携事業というところ、子ども読書活動の推進と地域との連携と利用者同士の交流促進とボランティアとの協働、これがまとまりとして本当に一つでいいんでしょうかというふうに思われる方もいらっしゃると思うんですけども、中央図書館の担当する係の分掌事務によっております。まず、資料収集と提供については資料相談係の分掌の範疇でまとまっております。行事と連携事業については、中央図書館事業系の業務の分掌によっております。そこから外れ、管理係ですとか企画運営係ですとか施設整備担当などが担うものがその他ということで、一まとまりになっているということになっております。

評価表、具体的には資料5-3、次のページからつづらせていただいております。まず、分野ごとに1枚ずつという形です。作成、記載の仕方としましては、この分野に当てはまる項目、分野、資料の収集と提供の分野に入ります、例えば、多様な資料の収集と提供、レファレンスサービスの充実、杉並の歴史的・文化的資料の収集・提供、この三つの項目の中で成果が出たもの、もしくは、これはとてもうまく事業を進めることができたという

ことを館としてアピールしたいという取組について、この令和7年度の成果という欄に記載し、評価、A、B、Cの評価をするという書き方を想定しております。

課題が残ったものに関しては、うまく対応ができなかったとか、企画したけれども全く手がつけられなかったというようなことは、「課題が残った点と今後に向けた改善案」というこの欄に、何がどうであって、改善をこういうふうにしたいということを書くようにします。こちらは、評価は特になく、今後取り組むよというようなことだけ書くようにいたしました。

併せて、目標が取組と並べて見られるように、上のほうに7年度の目標、それに向かって、7年度、成果が出たり出なかったりという欄があって、それを受けて8年度の目標はこんなふうにしようという、一覧で眺められるようなレイアウトにしております。

協議会委員の皆様にご評価していただくに当たっては、今までのように各館の取組が漫然と並んでいる表をご覧くださいではなくて、それぞれが重視した取組の結果、うまくいかなかったという結果が分かりやすくご覧いただけるようになったかと思います。評価の仕方は、今までどおり、サービス基本方針の実現に向けて、杉並区の図書館が取り組んだことに対して評価を頂くというようなことを考えていますので、様式は変わりましたが、視点は今までと同じようにご覧いただくようなことを考えております。

戻りまして、資料5-2のほうにまた戻っていただきたいんですけども、こちらの2番ですね、2番の中央図書館での評価というところです。中央図書館の評価なんですけれども、今まで中央図書館での評価は区立図書館の中心館であるとともに、荻窪地域図書館としての役割も担っていたんですけども、評価は、その辺りが、どの役割に対してどういう取組があって、どういう評価をしたのかというところが不明瞭でしたので、中心館としてこういうことをやった、荻窪地域図書館としてこういうことをやったということが分かりやすいように評価をしようと思っております。中心館としては、長期的目標、中期的目標を立てて、それに向かってどういう取組があったかというものを、この評価表とは別に作って評価していきたいと考えています。で、荻窪地域図書館として何をしたかというのは、この地域館と同じように、中期的・短期的目標を立てて自己評価をするということを考えております。

今まで不明瞭だったところがこれで大分明確になったのかなと思っておりますので、今、各館からはこちらを使って評価を書いてもらっているところですので、また内容については次回以降の協議会のほうでご報告していければと思っております。

続きまして、図書館サービス評価のもう一つの要素である利用者満足度調査のところなんですけれども、今年度も7月に実施予定で、現在準備をしておるところです。調査票はまだ完全に確定はしておりませんので本日お示ししておりませんが、過去に皆様から頂いたご意見を見直して、質問項目を整理いたしました。今年はA4判の両面という原則に戻ってみようかなと思っております。今までA3両面とか、かなりボリュームのあるアンケートを取っていたんですけれども、A4の両面に戻りたいかなと、作業を進めています。利用者の満足度を調査するという当初の目的に立ち戻ってみようと思っております。そちらの結果については、こちらは次回の10月の協議会のほうでご報告させていただこうと考えております。

図書館サービス評価の説明については以上となります。

○会長 はい。ありがとうございました。

委員の皆様から何かご質問ございますでしょうか。

どうぞ。

○委員 言葉の使い方について1点コメントなんですけれども、先ほど示していただいた資料5-3の分野に関して、最後のものがその他という扱いなんですけれども、その中に含まれているのが、いわゆる障害者の方へのアクセシビリティの向上だとか、そういったことが含まれていますので、その他というような名称ではなくて、誰にとっても使える図書館とか、そういうような、図書館が全ての方に開かれているということが、この広報であったり、環境づくりであったり、そうしたことはそうした概念も含まれるというふうに思われますので、その他扱いではないほうが適切かなという感じはいたしました。

それから、今回のアンケートと直接関わるわけではないんですが、アンケートの対象が、今回、それから、これまでも図書館を利用してくださった方がどれだけ満足していただいたかという観点からのアンケートなんですけど、やはり区民の方々の中には、まだまだ図書館をお使いでない方、区民の方、もしかしたら半分以上の方が図書館で行われているサービスについてご存じなくて、もっと広報できる可能性というものがあるというふうに考えられるのですけれども、そうした、図書館を日頃はお使いでない方が一体図書館というものについてどういうイメージを持たれているのか、あるいは図書館でこんなことをやっているよというふうにその方たちに働きかけたら、あ、そうなのかという反応があると。そういうような可能性もあるかと思いますので、ぜひ、非来館者といいますか、潜在的な利用者といいますか、そうした方々に何か働きかける取組を中期的には考えていただけると

いいかなというふうに思いました。

以上、コメントになります。

○会長 ありがとうございます。

何かございますか。

○企画運営係主査 はい。ありがとうございます。

実は、まず評価表のほうなんですけれども、分野の名称についてはご提案いただきました誰にとっても開かれた図書館ですとか、誰もが使いやすいというような部分は共通のポイントになるかなと思いますので、この運営状況報告書を作成する段までにはもっときれいで滑らかな名称を考えたいと思います。どうもありがとうございました。

あと、潜在的な利用者の方に向けたものなんですけれども、ずっと懸案になっておりまして、何ができるのかなというところが、ここでも皆さんに過去にアンケートを取ったらどうだろうというご意見をたくさん頂いて、なかなか実施できていないところなんですけれども、そうですね、中長期的目標の中央図書館の取組の中に含んでいけば、もうちょっと具体的に何かができる発想も出てくるかもしれませんので、追加してみたいと思います。

ちなみに、利用者満足度調査なんですけれども、基本的には来館した方に1枚ずつ手渡しをしてというところなんですけど、今回は、区役所の公式Xですとか、そういったもの、図書館からではないところから情報が流れるようにもしたいなと思っておりますので、広く何かご意見いただけるように、もう少し工夫を考えてみたいと思います。どうもありがとうございます。

○会長 ほかにございますでしょうか。

委員、どうぞ。

○委員 すみません。質問と要望で、質問なんですけど、この、今、資料5-3にある図書館自己評価表というのは、資料5-1の①に当たると思ってよろしいでしょうか。これは、各館でそれぞれ1枚ずつ出てくるというイメージでよろしいでしょうか。

○企画運営係主査 はい。

○委員 そうすると、中央館を除いた12館がこれを回答……

○企画運営係主査 はい。途中ですけれども、すみません。こちら、この資料5-3については、各館がこの3セットを館ごとに作成する。で、中央図書館も、荻窪地域図書館の視点からこの1セットを作成する予定ですので、13館分そろうようになります。それにプラス、中央図書館の中心館役割のものというのがつくイメージです。

○委員 また別に来るということですね。

○企画運営係主査 はい、そうです。

○委員 分かりました。はい。ありがとうございます。

あと、要望なんですけども、利用者満足度調査のときに、利用者に対して全て同じ質問をするというのは別に問題ないと思うんですけども、ただ、利用者が全てのサービスを使っているわけじゃなくて、使っていないサービスについて、何か死に票じゃないんですけども、あまり意味のないデータが返ってきていて、その取扱いが非常に何か不作為に思えちゃう部分があったんですね。なので、そのサービスを利用しているか、していないかということはちゃんと確認した上で、しているという人の回答を集計するというふうにしたほうがいいんじゃないかなというふうに思っているんですけども。もしかして、A4にしてみると、今度入り切らなくなるという懸念もあるかもしれませんが、ただ、ちょっと、去年、私は初めて見せてもらったんですけども、あのアンケートの取り方だと、ちょっと、本当にこれは評価していいんだろうかという疑問に思う部分もあったので、その辺も考慮いただければいいかなと思いました。

○企画運営係主査 はい。ありがとうございます。

昨年頂いたご意見を見ながら、今年度の満足度調査表をつくっているんですけども、まず、今考えている考え方としましては、初めて利用したよという方については、利用目的と図書館について何かご意見がありますかというこの二つだけ答えてくださいというふうに、まあ文面で書くので、どこまで気づいて、そのように動いていただけるか分からないんですけども、初めて利用した方は、利用目的と図書館について何かご意見があればお願いしますというところだけをお答えくださいというメッセージをつけました。数回程度利用した、もうずっと利用しているという方は、それぞれの図書館の職員はどうか、資料の種類はどうかというところを回答してくださいというメッセージをつけます。その選択肢の中にも「分からない」というのをつけました。使ったことがないから分からない。例えば、児童向けの本は、普通の大人の方は使ったことがないから、「利用したことがない」という選択肢をつけました。やっぱり雑誌や新聞を読みに来る方は、調べものの本なんかは使ったことがないよということで、「利用したことがない」という、5択が原則の回答をつくってみております。その5択にしているうちの中で、「満足」、「やや満足」、「やや不満」、「不満」という部分についてと、「利用したことがない」、「分からない」という回答は別に統計を取ろうかなというふうに考えています。なので、実際

に使ったことがあるだろう方が「分からない」以外のところにチェックをしてくださる、「使ったことがない」以外のところにチェックをしてくださるということを信じて、そことは切り分けた集計をして、それで満足度をはかるというようなことで、精度が上がるのではないかと今考えております。

○委員 分かりました。ありがとうございます。

○会長 はい。

それでは、委員、どうぞ。

○委員 自己評価表についての質問なんですけれども、いわゆるこれだと、例えば資料の収集と提供について、3項目まとめたものの短期的目標、長期的目標、令和7年度の成果についても、個別ではなくて、まとめたものの成果になるのでしょうか。それとも、短期的な、いわゆる今までのように書いて、それぞれの評価がA、B、Cというふうになるんですかね。

○企画運営係主査 はい。一応、この表を書くに当たりお願いしていることは、まとめたということではなく、この中でよくできたもの、成果が出て、評価を、A、B、Cなり、つけられるものを書いてくださいというふうにお願いをしています。まとめてしまうとぼんやりしてしまって、今までの11項目、あれだけ細かくやっていたのに、これから何かぼやとした評価になってしまうというのでは困るので、この三つの中のどれか一つでも成果が出たものがあれば、それだけでもいいから書いてくださいと。この三つ全部書いてしまえば、今までと、11項目と変わらなくなってしまうので、もうやり遂げているので、あえて書かないというものもあると思うので、この三つの中のこと、それぞれをまとめずに、それぞれで書いてほしいというふうに依頼をしています。

目標なんですけれども、目標については、例えば三つ書いてもらってもいいですし、その中で一つこれを突き詰めたんだということであれば、一つでもいいというふうに考えていました。

○委員 分かりました。今のお話でいきますと、よくできたものとして成果として書かれて、評価がAに。で、課題が残った点と今後に向けた改善というのは、成果と別な話になるという可能性もあるんですね。

○企画運営係主査 そうです。

○委員 ですね。うーん……。ちょっと何か、それが私たち、評価していいものか何か、ちょっとやってみないと分からないです。

○企画運営係主査 ありがとうございます。

この形に、評価表をこういう形にしてみたのは、どこをどう読んだらいいのかなというところの解消をしたくて、あの11項目だと、この取組に対して、この館はうまくやったと言っているけれども、同じようなことが書いてあるけれども、ここの館はこんなふうに書いてあるみたいなことで、どこに着目して、どういうふうに見ているのか分からないというのが、もうちょっとポイントが明確になってきて、皆さんが判断してもらう、何というか、取組が目立ってくるようになるかなと思ったんですね。なので、ちょっとどんな形で皆様にご提示できるか、私も戻ってくるのを待っているところなんですけれども、次回10月のときには全貌を明らかにしたいと思います。

○委員 そうですね。分かりました。

じゃあ、どこかの項目、全然触らない項目も出てくるかもしれないということですね。

○企画運営係主査 館によっては出てくると思いますね。

○委員 館によっては。

○企画運営係主査 その、触っていない理由を明確にしたいと思います。できなかったのか、ずっと頑張ってきて、もうこれ以上書くことはなく、それよりも頑張ったことがあるからこのことは書かなかったのか、そこら辺は明確にしたいと思います。

○委員 分かりました。はい。

○会長 はい。

ほかの委員の皆様、何かございますでしょうか。

○委員 一応、いいですか。

○会長 はい、どうぞ。委員。

○委員 すみません。今のお話のちょっと分からないところの質問になりますけども、結局、そうしますと、例えば、資料の収集と提供という中で項目が三つありますが、この三つの中で、もう、この、例えば多様な資料の収集と提供のところで、今回、このような成果があることができたという発表がありました。でも、レファレンスとか、そこら辺については、もう今までどおりというようなところで、今までどおりですとか、そういうところは記入してほしいということですか。一応、この項目三つについては必ず触れる。もしかしたら、杉並の歴史的なほうはもう書くことがないという判断であれば、もう書かない。で、書かないというふうになった場合には、それはなぜ書かなかったのかということとはどこかで分かるようになっていくということでしょうか。

○企画運営係主査 はい。この分野を三つに分けたにもかかわらず、一つ一つについて、できた、できなかったということを同じテンションで書くということを避けたいと思いついて、できたことはできた、できなかったことはできなかったというふうに——なので、今までどおりということは書かなくていいというふうにしたいと思って、つくったものです。なので、今までどおりだったものは全く触れられない。まあ、全く触れられないというか、ここに書かれていない。この館ではここに書かれていないけれども、ほかの館ではそこは取り組んでいるから書いている。そうすると、杉並区の13館の図書館全体では取り組んだ館が何館あったから、これだけサービス基本方針に基づく取組ができましたよというふうな見方ができるというイメージです。

全く触れられていないことに対して、これとこれはもういっぱいだから、これ以上書くことは特になかったんですよということなのか、全くもう取り組む余裕がなくて取り組めなかったから全く触れていないんですよというのは、何かしらの形で評価のタイミングでは情報をお出ししたいとは思っています。

○委員 あと、この評価については自己評価ということなので、館それぞれがこの成果についてはAの評価ですというふうにご判断なさるんだろうなと思うと、なかなか成果を上げつつ、BとかCとか、そういう評価というのはおつけにはならないのかなという、ちょっと気はしたんですけども。

○企画運営係主査 一応、A、B、Cの評価のつけ方というのは決まっています、Aというのはもう本当に最大限取組がうまくいったというところで、Cが予想どおりの結果になったみたいな、そういうレベル、A、B、Cの中でも段階が違うよという評価になっていますから、最高頑張ったけどBだったということもあるかもしれないので、Aしか出てこないということはないのかなと思っています。

○委員 ありがとうございます。また出てきた結果を見てみたいと思います。楽しみにしております。

○会長 はい。

それでは、委員、どうぞ。

○委員 すみません。今のご説明でちょっとよく分からないことが出てきたので伺いたいですけども、Aの中でもいろいろあるとか、Cの中でもいろいろあるみたいなお話だったんですかね。何か、そうすると、見ている側としては、このAの意味は何だろうとかということになっちゃって、ちょっとやりにくくなっちゃうなと思ったんですが、まず、その

点と。

あと、ちょっと何年か出ていて、やや気になっているのが、割と毎年その項目が変わっていないかなというところがあって、特に利用者満足度調査なんですけれども、もっとこうしたほうがいいからということで変えるのは、まあそれはそうなんですけれども、ただ、変えることで、継続性がなくなって比較しにくくなるということもあったりするので、今回変えることで、その辺、前年度こうだったけれども今年こうなっているのは何でだろうとか、今年下がっちゃったのは原因は何だろうみたいなところを追いにいくことになるんだったら、ちょっとそこは、ちゃんと追えるようなやり方にしないといけないなと思ったりもするので、評価の中身がどうなのかというのと継続性の観点で、ちょっと教えてください。

○企画運営係主査 はい。すみません。私のしゃべりがなかなか拙くて申し訳ないんですけれども、自己評価のA、B、C、これは、今お配りしています運営状況報告書の24ページのほうに、自己評価のランクのA、B、Cというのは、こういう視点でつけてくださいというのが載っています。先ほど、頑張ったけどBだったというのは、Aの中にも幾つもある、Bの中にも幾つもあるということではなく、一生懸命頑張ったけれども、計画どおり実施され、成果があったというところに止まってしまったら、頑張ったけれどもAまでは行かなかったのでBという評価をしたよということを説明したかったんですけれども、それもまた、何か今の言い回しも何かややこしかったかなと思うんですが。なので、もうここに書いてあるとおりで判断して評価されていると思って、ここに書いてあるとおりの判断で評価をしていただければなと思います。申し訳ありません。今回、Dというのは、もう言わずもがななので、消して、A、B、Cの三つにしたということ、A、B、C、3段階に変えようかなと思っています。

もう一つ、利用者満足度調査の設問が変わっているという件なんですけれども、今のお話だけだと、ほんと継続性がないように聞こえてしまったかと思うんですが、根本の設問は変えていません。職員のこと、資料のこと、事業のこと、昨年度と比べられる設問の体系は変えていません。ただ、中で増やしていたものを減らしています。例えば、利用したことがない、どうして利用したことがないんですかという設問を拾おうかと思っています。何年か聞いてきたので、もう傾向は、と思いますし、今年度は、先ほども言いました、利用したという、「満足」から「不満足」までの方の中での満足度調査を図っていきたいということなので、使っていない方はちょっと、もう深入りは、この利用者満足度調査で利用していない人に深入りするのはちょっとやめていったほうがいいのかという考

えです。なので、基本的な質問体系は変えていません。で、自動貸出機ですとか予約棚ですとか、新しい機器が入ったものについての満足度は追加したという形になっています。

○委員 すみません。私が申し上げた継続性というのは、利用者満足度調査もそうなんですけれども、この自己評価でもう変えてしまったときに、前年度の比較がしにくくなったりとかということもあるのかなと思ったので、ちょっと申し上げたんですが。

○企画運営係主査 そうですね。自己評価の面については、最終、何だろう、各館それぞれがこういう取組をしたいというのをまとめて、だから、考え方としては、最終的には11項目それぞれがちゃんと進んでいるという形には、その形自体は変わらないのかなと思っています。なので、各館それぞれ一つ一つが頑張ったことをというよりかは、杉並区立図書館として、このボランティアとの取組については本年度はこういう取組があったというのは、去年も今年もちゃんと比較ができるのかな、杉並区立図書館としては比較ができるのかなというふうに思っているので、全く比べられなくなるものではないんじゃないかと今は思っているんですけれども。

○委員 今まで項目ごとにこの紙を出していましたと。

○企画運営係主査 はい。

○委員 今度、三つにまとめますと。中には、もうやり切っちゃったから書くことがないやとって、書かれない項目があると。そうすると、まとめたその3枚の紙の中に書かれない項目って出てくるんですよね。そういう形で上がってきたものをまた整理していくときには、項目ごとにもう一回振り分け直して集計していくような形になったりするイメージなんですかね。そこで、ああ、ここが抜けているなと分かった。そういうことなんでしょうか。

と考えていくと、紙をまとめただけで、やっていることは、結局、ばらばらのときのことと中身としては同じだったということになって、何のためにまとめたんだろうという気もちよつとしちゃったんですけれども、どうなんでしょうかね。

○企画運営係主査 まとめた理由は、書きやすさ、見やすさを追求したというところなんです。それを分野ごとに並べて、それを一つ一つ項目ごとに、まあ、内容は見ますけれどもなら、組み替え直すということは、何だろう、作業としてはしないですよ。この館はここが抜けているというような見方ではなく、全体でこの三つの項目が、13館がこの三つの項目、何かしらどこかが触れているということであればいいのかなというふうに思っているんですけれども。うーん……、なので、結果、たどり着くところは今までと同じなん

です。ので、何で分けたのかなと思われるかもしれませんが、見やすく、書きやすくなるようにと思って分けたというところなんですけれども、ずれていますかね。

○委員 ちょっと伺ってもいいですか。すみません。

先ほどちょっと評価のところ、今までだったら個別に評価を出していたところが、今回、例えば、じゃあ、1番の多様なところを中心に書きましたといったときには、それについては評価Aとかが出たとしますよね。でも、ほかも、レファレンスのことも少し触れました、歴史も触れましたと。でも、全体的に総合的に考えたら、その評価は、という見方をするわけですか。全体的に考えたら、じゃあ、Bになってしまいますと。

○企画運営係主査 各館の評価はしないです。

○委員 自己評価として……

○企画運営係主査 いや、それぞれの評価です。項目ごとの評価なので、分野の評価はしないつもりです。

○委員 ああ。じゃあ、この評価というのは、項目が三つあれば……

○企画運営係主査 そうです。

○委員 三つ出てくるということですか。

○企画運営係主査 いや、なので、その項目の中で頑張ったものだけ出てくる。出てこないものもある。

○委員 これがこの館でこう書いて、これが頑張れなかったら、こっちに来る。

○委員 だから、こっちに課題として書く。

○委員 問題は、変わらなかったというやつが、こっちにも、こっちにも出てくる。

○委員 出てくる。うーん。すみません。

○委員 すみません。

そうすると、紙をまとめたことで見えてこない項目というのが出てきて、頑張ったものを書けばいいからということになって、ほかの項目は頑張らないと。場合によっては取り組まないということができるような仕組みになっちゃうような気もしたんですけれども、そこは、性善説で、いや、全部頑張っているんですというふうに割り切ってされると。そういう整理をされているということなんですかね。

○企画運営係主査 そうですね。そうすると、先ほどから申し上げているとおり、触れられていない部分については、どうして触れられていないのかというのは、こちらのほうから、中央図書館のほうから各館に聞き取りをする必要があります、それは明確な形で皆さんに

お示ししようかなと思っています。

○委員 えっ。それは、それだったら、これに書くようにしたらいいんじゃないんですか。なぜ聞き取りにするんですか。

○企画運営係主査 なるほど。

○委員 透明化したほうがよくないですか。

○企画運営係主査 そうすると、でも、結局、今までと同じで……

○委員 うん。そうなんですけどね。

○企画運営係主査 同じになってしまっという堂々巡りになってしまうので。うーん……

○委員 今のお話を伺っていると、まとめることで見えなくなってしまう。11項目が全部横で通して見えていたのが、大きくくりで三つに分かれちゃいますので、見えない項目が見えてきちゃう、出てきちゃうというのが、多分、評価する側の不安だと思うんですね。だから、その辺りが払拭できれば、書く量を減らすことの簡便性のよさはあると思うんですけども、その見えなくなってしまった部分について、我々がどう捉えるかというのが、今、一つ、ちょっと不安。不安定材料かなというふうに感じました。

以上です。

○企画運営係主査 分かりました。今までの11の項目ですと、目標があって、それに対して取組結果があって、今年度はそこまでしか書いていないですけれども、今後の課題みたいなところと目標というふうに四つの段階で書かなければいけなかったというところがあって、そこが苦しいのかなと思っていたんですけども、この書き方であれば、成果をわざわざ書かなくてもいいことについては一言触れるということで、結局、項目三つなり四つなりにそれぞれ一言は触れるというふうにして、Cの評価、今までどおりやりましたみたいな評価で出てくるといいということですね、きっと。なので、紙の形を変えて、書く、何だろう、段階を減らし——うーん……、一言触れるように、全ての項目について、この3枚の中に表すというふうにしてみるということではどうでしょうか。やっぱり、見えない項目というものが全く取組まないということの温床になるというのは確かにそういうところがあるので、そこはこちらからちゃんと促していかなければいけないなと思っていたんですが、そこも含めて、やっぱり見える形にしておく必要があるということですね。

じゃあ、ちょっと書き方についてはもう一工夫考えて、全ての項目について一言触れるというようにもう一度考えたいと思います。

○会長 今ご説明があった、もうこれはサービスのレベル、これ以上、いつもどおりやっていますという形で、取組成果なのか、どこかに書いていただいて、それで、今までどおりという評価はあんまりよくないということで、評価としてはC評価なんだけど、これはもう結構ハイレベルに、例えば、レファレンスサービスはすごく充実して、うちはもう去年からやっているんで、昨年と同じようにやっていますというふうに書いてもらえればいいという形ですかね。

どっちにしろ、結局、11項目、今までの議論ですと、11項目はそれなりに何かしら書いていただくという方向じゃないと、やっぱり何にも書いていないとなると、それがいいのか、悪いのかというのが判断できないというのが、今、委員の皆様のちょっと——今後10月以降、評価していく中でどう判断していいか分からないし、昨年からよくなったのか、悪くなったのかというのがよく見えないんで、ちょっと何か書いてほしいという要望になりますので、ちょっとそれを受け止めていただいて、お願いしますということですね。

ちょっとそんな感じで、実際10月にまたどう出てきたかによって、またちょっと判断させていただけたらなと思いますので、ちょっと今日のところはこれで、議論としてはおしまいにしたいと思います。

ちょっと時間もありますが、本日、四つの議題について、以上となります。

残り、最後、一応、用意した議題はその他なので、次回日程がありますが、ちょっと次回日程は後ほどということで、あとちょっと時間がありますが、ここまでの議論の中で、今日は年度初めということで、図書館からの大きな課題ですとか、あと、今後のやっていくべきことなどがちょっと館長さんのほうから示されましたが、ここまでの話の中でちょっとお話を、ぜひ、ご意見いただいていない委員の皆様から頂ければなと思いますが、いかがでしょうか。

どうぞ、委員。

○委員 先ほどお話しすればよかったんですけども、令和8年度の主要課題の3のところに子ども読書活動推進計画の策定というのが主要課題で入っていて、今年度中に策定するという脈絡なので、とてもタイトな作業になっているかと思うんですけども、その中で、「策定にあたっては、子どもの意見も聴取して参考とする」。これはとても大事なことだと思うんですけども、学校サイドからすると、聞きやすいところでそういう場を設けてくれないかとかということになりがちなんですけど、極力そういう形ではなくて、日常の、例えば図書館に来館する子どもたちとか、あるいは学校で図書室を利用する子どもたちか

ら何か日常的に声を吸い上げるような仕組みを少し工夫していったり、あるいは、済美教育センターの所管の中で、学校主幹の研修会があったり、情報共有する場がありますので、そういう中で、学校ごとに何かいろんな方法があるかと思うんですけども、子どもの声を吸い上げるような何かちょっと仕組みをつくっていただいて、そういうのがうまく反映できると、ためにする調査とか、ためにする聴取にならなくていいのかなというふうに感じますので、ぜひ、そこらはちょっと、要望としてお願いしたいと思っています。よろしくお願いします。

○会長 ほかにございますでしょうか。

私もちょっと、先ほどご意見の中で、委員のほうから利用していない方への何かしらのアンケートとか意見聴取をしたほうがいいという中では、資料4の令和8年度主要課題で、図書館の今後のあり方の検討というのを、今年は準備で来年度からまた進めていきたいということになりますと、来年度、例えば、そういう、まだ、住民に対してのサンプルの調査ですとか、もしくは住民の代表の方にちょっと聞き取りをするような、そういう場を設けていただけると、あんまり使っていないよとか、あとは、何かしらの事情で使えない方とか、そういう方のご意見も出てくるとは思いますので、もし、令和9年度、そういう機会をするための例えば予算をどのくらいしてみるとか、お試しでちょっと聞いてみるとか、そういうことをやってもらえるといいのかななんて、委員のご意見を聞きながら思いましたので、今年はあくまでもその準備ということなので、ご検討いただけたらな、なんては思っています。

○共創教育担当部長 共創教育担当部長ですけれど、今の件なんですけども、区のほうでは区政モニターアンケートというものをやっています、たしか200人ぐらい、区政相談課でやっているんですけども、そこで意見とか、そういうことを聞くことができる機会があるので、そういったところも活用できるのかなと。そこだと、予算的なものはないんですけども。ただ、エントリーの関係があるので、今年必ずできるかどうかはちょっと確認しないと分からないんですけども、そういったこともちょっと視野に入れてやっていきたいなというふうには思っているところです。

○会長 ほかにございますでしょうか。

どうぞ、委員。

○委員 すみません。既に1回発言していたんですが、先ほどの自己評価表に関してなんですけれども、過年度の自己評価、こちらのほうの冊子の25ページ以降を少し読み直しま

したら、やはり自己評価Cが三つ、Dがゼロということで、なかなか指定管理の皆さんが自分たちのサービスについて課題があるというふうに対外的に示すということにハードルがあるんじゃないかなというふうには感じました。

その意味で、今回の評価表において、評価A、B、Cと切り分けて、課題について書いていただくということは、これは重要であると。やはり課題が認識されないと、そのサービス自体がよりよいものになっていかないという点はあると思いますので、AやBをつけて課題がないよという状態よりは、どこに課題があって、それを自分たちでどういうふうに改めようとしていくのか。そのことについての意見を吸い上げられるような、そうした取組になると、さらにいいんじゃないかなというふうに感じました。

すみません。以上、コメントです。

○会長 はい、どうぞ。

○委員 多分、何事もそうかなと思うんですけども、私、ここに入りまして、今年度で4年目になります。正直、1年目はこの報告書を見ても何が書いてあるか分からないし、とても読みにくいしという気持ちでいっぱいだったんですけども、何だろう、自分のことをちょっと棚上げるようで恐縮なんですけど、読書がバリアフリーであるように、こういった報告書もなるべくどんな人でも、それは年齢なのか、経験なのか、知識なのか分からないんですけど、であつたら、より報告になるのかなと思っています。

中央図書館は近いので、小さな変化、こちらもどんどん少しずつ変化されて読みやすくなっていったと思っています。それは、ちょっと勇気を持って、少し変えてみたのか、大きく変えてみたのか、そのときによって違うとは思いますが、何か1回ぐらい変えてみて、うまくいかなかったら戻るということも悪くないことなのかもしれないと個人的には思うんですが、図書館は継続するものなので、その辺の兼ね合いは難しいと思いますが、今後この協議会の中で一緒にお話しできたらなと思いました。

○中央図書館長 ありがとうございます。

お二人の委員から頂いたお話にも関連があるんですけども、評価が出まして、当然、評価部会であるとか協議会の皆様にご報告させていただいてご意見いただくというところも重要だと思っています。また、私ども月一で、指定管理館、直営館、全て併せまして館長会を行っておりますので、そういったところで、結果が出て、評価も踏まえまして、それぞれの館の得意、不得意というようなところもあるかと思っていますので、よかった点も含めて、意見交換をさせていただいてと。ぜひ、底上げというところもあるかと思っています

し、全体で良くしていくというところもございますので、そういった視点も少し考えてまいりたいと思っております。

○会長 はい。それでは、ちょっと、もう、かなり時間も過ぎましたので、第1回の意見交換についてはこのくらいでさせていただきたいと思います。

では、その他ということで、事務局からの連絡事項をお願いいたします。

○中央図書館長 では、私のほうからお伝えさせていただきたいと思います。

皆様のお手元に別紙というものをお配りしておりまして、年間スケジュールということで、本日の6月13日から始まりまして、第3回の協議会、1月23日までのスケジュール、こちらを記載させていただいております。このスケジュールは、7年度の第3回でおおむねご確認、ご案内させていただいたところではあるんですけども、改めまして、年間の計画ということで、ご予約のほうを、皆様、ぜひご確認を頂きましてお願いできればというふうに思っております。

正式な開催通知につきましては、それぞれの協議会の開催のタイミングであるとか評価部会の開催のタイミングで、私ども担当のほうからメール等でご案内もさせていただきたいと思いますので、開催スケジュールにつきましては、ご理解、ご協力のほど、お願い申し上げます。ありがとうございます。

○会長 はい。それでは、こちらで、令和8年度第1回の図書館協議会を終了させていただきます。

本日は、活発なご意見と、あと議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございます。以上で終了いたします。お疲れさまでした。